

2017 年秋 くろんど園地 「タカの渡り」 調査報告書

2017 年 11 月 16 日

JPA17 期 山崎 智

1) 概要

タカ類の一部は秋に日本から南方の国内又は東南アジア方面へ長距離を行っていて、日本各地でその途中に移動の観察が行われている。
JPA の活動地である「くろんど園地」でもその移動が観察できる。
その実情を今回観察してみた。

2) 目的

1. タカの渡りの現状調査（園地での生き物調査を兼ねる）
2. 観察地としての適性調査
3. JPA 活動としての適性検討資料の収集

3) 観察日程

2017 年 9 月 18 日（月）～11 月 3 日（金）の 10 日間
9 時頃～15 時頃までの約 5・6 時間

タカの渡りは 9 月上旬から 11 月中旬にかけ、また種類によって期間のばらつきがある。
その中で比較的飛来個体数が多いと予想される時期を選定し行った。
また、時間は園地駐車場開利用可能な 9 時 00 分～17 時 00 分の間で、催しとして園地退場を考慮した時に 15 時程度が適当と判断、また個人的都合可能な時間の中で行った。

4) 観察地

大阪府民の森、くろんど園地、そよかぜの路展望台での定点観察。標高 295.3m

くろんど園地内においてタカ類の飛来方向と思われる、標高が高く且つ北側の展望が最も良好と思われる場所を選定した。

北方面にマツ・サクラの木が目の高さより約 2m 程度の障害物があるが、視野においてはそれ以外では及第点と思われる。園地ガイドに 300 度の展望地の表示がある。

北東方面は宇治辺りの山から奈良盆地の若草山・天理付近。葛城・金剛山・生駒山の山頂、阿倍野ハルカスの上部が見渡せる。西側は園地西側境界の尾根筋まで。南西方向はさきいちカントリークラブの照明が見える。

観察地はコンクリート作りの貯水槽天井部にあり周囲を転落防止の鉄柵が設置されている。
女性においては八つ橋付近のトイレが一番近い。これが難点になるだろう。

「展望台からの眺め」

北側



東側



南側



西側



5) 観察者

JPA17 期山崎 智（全期間）、20 期井坂良輔・10 期武田敏文（11 月 3 日）
JPA メーリングリストで観察参加を呼びかけたが 2 名の参加にとどまった。

6) 観察方法

この時期で個人的に都合の付く日に出来るだけ行うという方針の基に車両で来場。
9 時過ぎには観察開始し、出来るだけ 13 時以降 16 時 00 分の間まで観察を行うようにした。

観察地点においては、東西を結ぶ線より北方向からのタカ類を含めた飛来鳥類を全て肉眼と双眼鏡、
望遠鏡を使用し識別を試み記録する事とした。

記録は毎時 00 分と 30 分の間隔ごとに、種類とその羽数、識別できる鳥類以外の昆虫なども記録し
た。

識別困難な種類は SP（species-何々の種）として羽数のみ記録した。

7) 観察結果

1. タカ類について

表 1 日付別タカ種類別出現数

回数	日付	サバ	ハチク	ノリ	材効	ツミ	ハヤブサ	チョウゲン ホウ	効 SP	合計
1 回	9 月 18 日									0
2 回	9 月 20 日		3							3
3 回	9 月 23 日		10							10
4 回	9 月 25 日	15	11	3		3	1			33
5 回	10 月 4 日	1	2	3						6
6 回	10 月 7 日		1							1
7 回	10 月 25 日			3					3	6
8 回	10 月 26 日			9	3	5		1		18
9 回	11 月 1 日			5		2				7
10 回	11 月 3 日			2	1			1		4
	合計	16	27	25	4	10	1	2	3	88

●タカ類の区分

夏鳥（九州以遠へ移動するもの）・・・サシバ（沖縄本島で冬鳥）・ハチクマ（インドシナ半島からカリマンタン島「旧ボルネオ島」へ移動）。

漂鳥（おそらく九州までの移動と思われるもの）・・・ノスリ・オオタカ・ツミ・ハヤブサ・チョウゲンボウ
タカ SP・・・タカ類との区別は出来るものの、種別特定ができなかった物

サシバ

体長♂47cm ♀51cm 翼開長 105-115cm



ハチクマ

体長♂57cm ♀61cm 翼開長 120-135cm



ノスリ

全長 52-57cm 翼開長 120-140cm



オオタカ

全長♂50cm ♀60cm 翼開長 100-130cm



<参考>

タカ類・ハヤブサ類は一般的にメスがオスより大きい

ハシブトガラス 全長 56cm 翼開長 100cm 体重 550-750g

●時期的考察

サンバやハチクマの移動は他の観察地結果から 9 月 18 日以前より始まっているものと思われるが、10 月 4 日前後で終わっていることは、ここだけの結果ではなく全国的な傾向と思われる。ノスリは 9 月下旬から 11 月までここでも飛んでいるようである。ハイタカ属（オオタカ・ツミ・ハイタカ・アカハラダカ）はここでも遅めの時期が多いようである。

9) 参考を参照ください。「岩間山・くらんど比較」

ノスリやハイタカ属については 11 月中旬ころまで続くようだが、羽数が少数な為観察について今回は見送った。

●時間的考察

交野山で観察をしていたと言うシニアの男性曰く、昔は数百羽の観察はそう珍しくなかった。300 羽飛んだ時は朝 8 時台だった。

今回は駐車場の関係で 9 時開始としたが、何回か顔を合わせたタカ目当てのカメラマンは私が到着する時刻には既に居て 10 時頃には退散するという行動をしていた。交野山と同じような 9 時前が狙い目なのかも知れない。

今回の観察では 9 時台と 11 時 30 分～12 時 30 分での出現が比較的多かった。

夕刻時刻については駐車場・疲労度等の関係で今回は大凡 15 時頃まで、平均 4 時間 46 分だった。

表 2 観察日と観察時間

回数	日付	開始時刻	終了時刻	観察時間	備考
1 回	9 月 18 日	9 時 13 分	11 時 21 分	2 時間 8 分	以後小雨
2 回	9 月 20 日	9 時 14 分	12 時 30 分	3 時間 16 分	
3 回	9 月 23 日	9 時 10 分	15 時 00 分	5 時間 50 分	
4 回	9 月 25 日	9 時 20 分	14 時 30 分	5 時間 10 分	
5 回	10 月 4 日	9 時 30 分	15 時 00 分	5 時間 30 分	
6 回	10 月 7 日	12 時 30 分	16 時 00 分	3 時間 30 分	午前降雨
7 回	10 月 25 日	9 時 35 分	14 時 00 分	4 時間 25 分	
8 回	10 月 26 日	9 時 45 分	15 時 30 分	5 時間 45 分	
9 回	11 月 1 日	9 時 30 分	14 時 00 分	4 時間 30 分	
10 回	11 月 3 日	9 時 15 分	15 時 00 分	5 時間 45 分	
			平均時間	4 時間 46 分	

●飛行経路

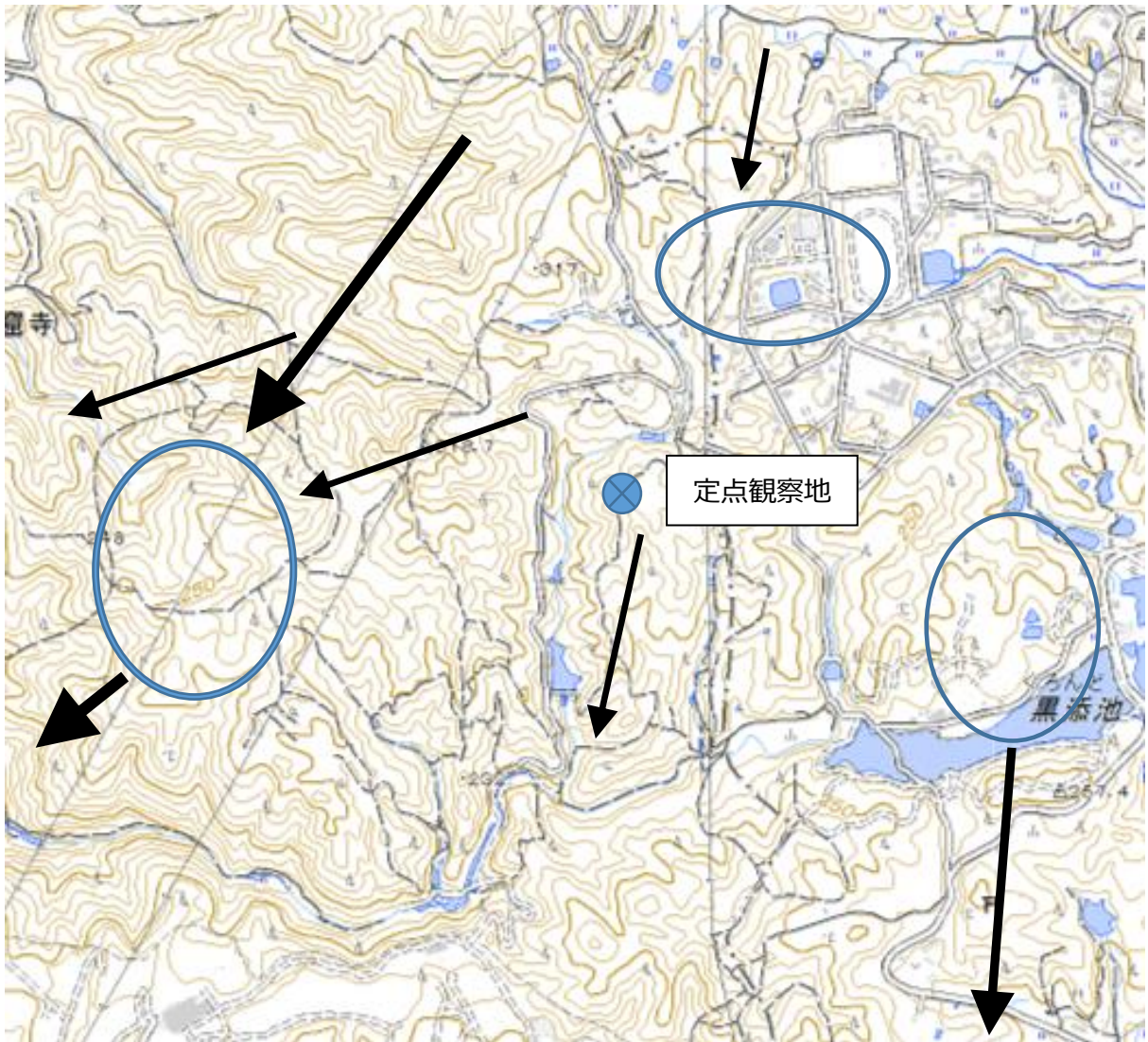
ほぼ北の方角から南又は南西の方角へ飛去して行く。

定点観察地点の真上を飛んで行く物もあるが、くらんど池付近の上空から西の高圧電線のさらに西まで東西方向での飛行経路の幅がある。

今回は、どちらかという観察地点の西側を通過する個体が多いように感じた。

また、上空 40m 程度を飛んで行く物もあるが、肉眼で見つけにくい物もあり観察には気が抜けない。タカ柱が見られる期待がある帆翔（はんしょう）する場所は、観察点の北側、西南西方向、真東方向の 3 か所観察され、北側の地点は識別に十分な距離にあった。

図 観察地と飛行路・帆翔地 (上が真北)



バツ入りの丸 : 定点観察地

矢印 : 飛行方向。太さは出現率の多さを示す

丸印 : 帆翔地。円の大きさは飛翔回転の大きさを示す

2. タカ類以外の長距離移動をする夏鳥・冬鳥について
表 2 の通り、夏鳥は 8 種類、冬鳥は 3 種類観察された。
表 2 から大凡 10 月中旬が夏鳥と冬鳥の出現の境の様に思われる。

双眼鏡の視野に入れられない、また入ったとしても識別困難な不明の小鳥が数羽から 50 羽前後の群れで移動している場面に遭遇する。

これらは時期的な事から殆ど北から移動してきた冬鳥と考えられる。

夏鳥の場合、8 月中旬から始まり、10 月上旬に終わる物が多いように思われる。

観察時刻内の昼間でこの様であると、早朝や夕刻はかなりの数の移動が見られると想像される。
しかし、識別はさらに困難となることが予想される。

一般的に野鳥の移動は体の大きいも（ガン・ハクチョウ・ツル類など）のほど昼間移動を行い、小さい体の物（ヒタキ・ホオジロ・アトリ類など）は夜間に移動することが多い。そのことから小鳥の移動観察は早朝や夕方に遭遇することが多いと予想される。

2017 年の長岡京市での観察ではツバメ類が 16 時から 17 時頃に群れで移動するのを観察している。

表 3 夏鳥・冬鳥 日付別出現数

回数	1 回	2 回	3 回	4 回	5 回	6 回	7 回	8 回	9 回	10 回
月	9 月	9 月	9 月	9 月	10 月	10 月	10 月	10 月	11 月	11 月
日	18 日	20 日	23 日	25 日	4 日	7 日	25 日	26 日	1 日	3 日
アマツバメ							1			
ワツバメ	1							4	1	
イソヒバ		3	22							
オカ	1		1							
コサビ				2		1				
コシアカツバメ	1		20+		2	38				
サビ			3			2				
ツバメ		15+	10+		3	27				
アトリ									6	
マヒワ										50
ツグミ類							100+			3
不明小鳥								40	26	17
合計	3	18+	54+	2	5	60	101+	44	33	70

「+」 それ以上の意

夏鳥…表の中の アマツバメから下のツバメまで

冬鳥…表の中の アトリから下の不明小鳥まで

3. 調査結果データ

別資料エクセル「2017 くろんどタカ渡り考察」の 3 シート参照

2017 岩間山・くろんど比較

2017 くろんど園地全データ

2017 くろんどタカ類出現時間

8) 考察

1. タカの渡りの現状調査（園地での生き物調査を兼ねる）

飛行機は 11 月の 2 日間をみると 1 日 80 機以上飛んでいて、これだけ飛べば誰が来ても満足されるだろう。

タカ観察数は低調を予想していたが、ほぼ予想通りの結果だった。

専ら肉眼での探しを重点に置いていたので、遠くを飛んでいるための見逃しが多かったかも知れない。

天気が良い時は飛行高度が高くそれが顕著に思われる。

● タカ以外の野鳥について

観察地の付近の樹木に止まってくれるヒタキ類、アトリ類が観察し易いが、飛び続けるツバメ類は双眼鏡に入れられない人は識別困難かも知れない。

谷沿いに群れで飛んで行く姿だけでも自然を感じられるだろう。

9 月から 11 月にかけて観察される種が夏鳥から冬鳥に代わることで季節感を感じられるだろう。

● 昆虫について

セミ類始め夏の虫。11 月まで飛んでいるオオスズメバチなどが観察されたが、種の識別知識が多くないのでトンボなどは SP の類にしたのみに終わった。

特徴的な事として、ツクツクボウシの声が 10 月中旬を境に声が聞こえなくなる。

昆虫識別が出来る人が必要と感じた。特に飛翔昆虫は多くが識別困難だった。

調査結果データはエクセル「2017 くろんど園地全データ」シート参照

2. 観察地としての適性調査

今回初めて定点で且つ 2 か月程度 10 回の観察を行った。

地盤が堅固なコンクリート作りで視界が開け手すりも設置されて、野鳥の定点観察地で且つ“渡り”と限定しては、適当と言ってよいのではと思う。

そこで前提になるのは視覚と聴覚としての識別能力があることになるが、回数を重ねるとさらにいろいろな事柄が分かってくるだろう

ただ、女性が行う場合トイレが近くにないことが問題になるだろう。

尚、10 回で遭遇した他の観察者は野鳥カメラマンが 2 名のみ。ハイカーが休みになると多くなるが数人から十数人程度訪れる場所の様で、JPA が観察行動を行うことで対人的に問題はないと思われる。

3. JPA 活動としての適性検討資料の収集

参加者 10 名程度を一度に收容し、催しを企画し実施する場所としての考察であるが、タカの渡り以外に可能と思われる他にキーワードでは遠方展望、スズメバチ、トンボ、雲、カラス、地形、枯れ木、夏鳥・冬鳥の移動などが出来そうな感じがする。

但しトイレのこの考慮が必要だろう。

今回調査外の早朝や夕刻にどんな情景なるかで、また違ったヒントがあるかも知れない。

9) 参考

別資料エクセル「2017 くろんどタカ渡り考察」参照

2017 岩間山・くろんど比較

2017 くろんど園地全データ

2017 くろんど園地タカ類出現時間

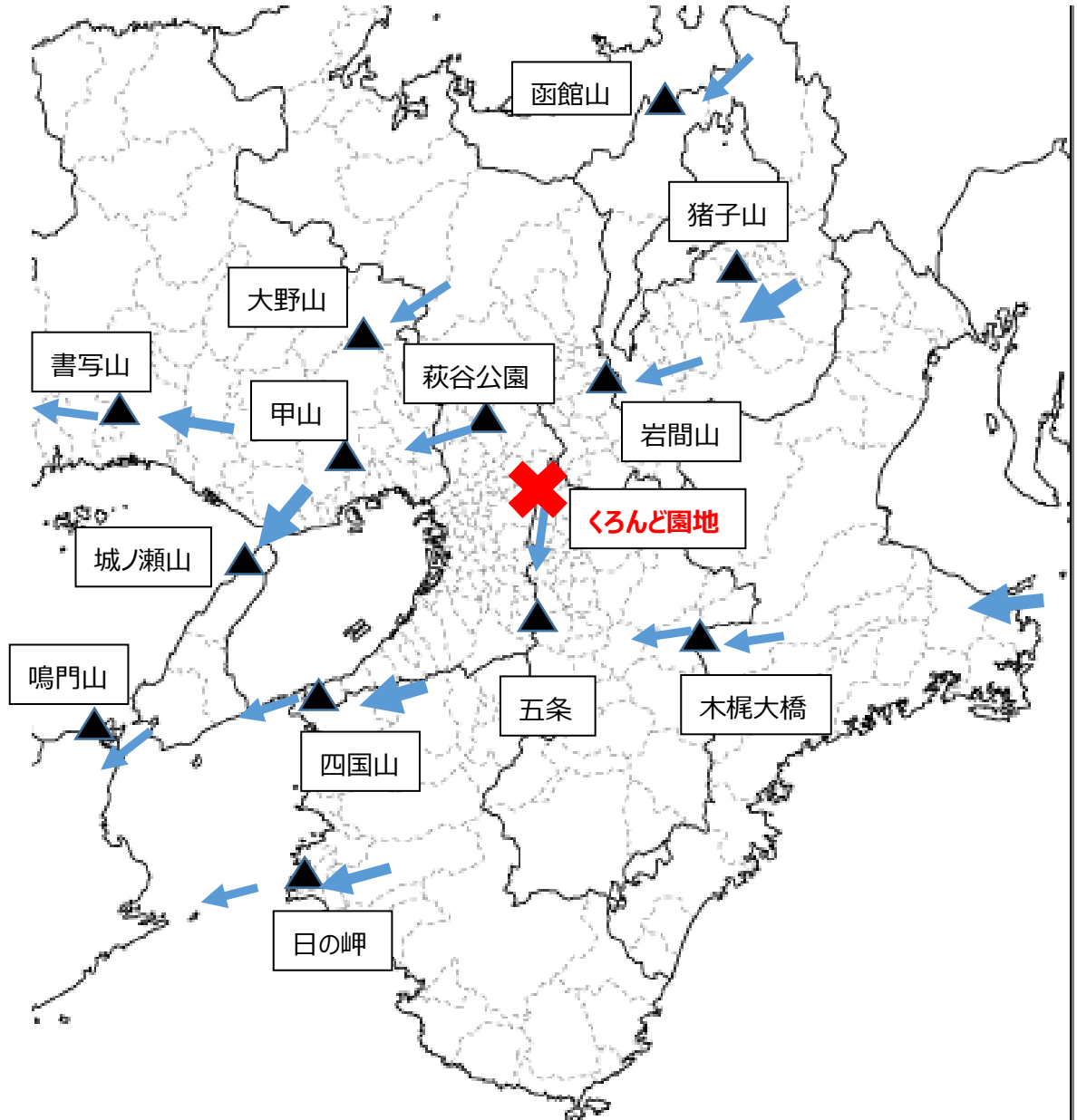
過去の交野山

● 以前のタカの渡り観察記録

日付	サシバ	ハチマ	ノリ	材効	合計
2010/9/5		1			1
2010/9/20	3	9			12
2010/9/26	5	8	5	1	19
2010/10/11	5		3		8
合計	13	18	8	1	40

※タカの渡りではなく一般的野鳥観察時の記録（園内散策中の出現数）

● 関西の主な観察地点



- 凡例 矢印…タカの移動方向と量（感覚的）
 ▲……タカの渡り、主な観察地
 ×……くろんど園地

この図から推測だが、くろんど園地の位置はタカ渡りの経路から考えると脇道にあたるのではないだろうか？だとすれば、数百羽を頻繁に期待するのは無理がありそうである。

● 他の観察地点の状況

「タカの渡り全国ネットワーク」<http://www.gix.or.jp/~norik/hawknet/hawknet0.html> というサイトがインターネット上にあり各地の最新の又は過去のデータが閲覧される状況にある。それによると今年岩間山では8月31日～11月6日で総9875羽、1日最大1387羽。

高槻萩谷公園では8月30日～11月9日では総9094羽1日最大1569羽。

という数字が出ている。この内1%程度がくろんど園地付近を通過しているのではと今回の調査で観られるが、両調査点では早朝と夕刻も含むため、評価しがたい状況ではある。

どちらにせよ、園地付近をタカは毎年通過していることは間違いない事の様である。